

8－6					
主 題	排泄ケアから学ぶ人権を守るケアへの意識改革				
副 題	個別排泄ケアにおける多職種連携				
キーワード 1	人権と尊厳	キーワード 2	排泄ケア	研究(実践)期間	21 ヶ月

法人名	社福) 同胞互助会	事業所名	特別養護老人ホーム愛全園
発表者(職種)	伊藤あや子(介護職)、福田大輔(介護職)		
共同研究(実践)者	皆川梓(介護職)、西澤輝(介護職)		

電 話	042-541-3100	FAX	042-546-8284
-----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	特別養護老人ホーム愛全園は、併設のショートステイ、併設のデイサービスが設置。定員は特養 112 床、特養 2 階フロアにショートステイ 20 床、別棟に、併設のデイサービス 25 名が利用されている。在宅、施設で連携をしながら一体的に、個別具体的なケアを行っている。常勤医がいることで、特に看取りケアに力を入れている。
-------	---

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

当施設では、85%の方が何らかの排泄機能障害を持っている。当施設の排泄ケアは、個別排泄プログラムを行っている。具体的には、入居後 5 日程度、排泄後のパットの重さを計測することにより、どの時間にどれだけの尿量があったかを確認し、その平均値により時間帯ごとに吸収量の異なるパットを選ぶ。更に、再アセスメントのために、年 2 回尿測を行い、排泄モニターを中心として、パットのランクを決めている。個別排泄プログラムを行う上で、最も大切なことのひとつとしては、利用者の排便コントロールを行うことである。適切な下剤やそのタイミングをはかるまでは、夜間の排便の利用者が多く、睡眠の妨げになり、着衣やシーツを汚すことで不快感を与えることもあり、また、職員の負担も増えていた。結果的に守りの介護となっていき、パットランクを上げて対応する職員もいた。当法人の理念である「快眠・快食・快便・快感」を行うためには、スタッフの意識の改革が必要だった。その為には、尿測方法の見直し、専用パットの適切な当て方の勉強会、排便コントロールにより夜間の排便がないようにするための薬剤の調整など、看護師、医師との連携を密にしながら、個別排泄ケアの最適化を行う必要性があった。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

介護未経験のスタッフも増える中で、介護職の中にも、個別排泄プログラムを正確に理解しているものが少ないこと、また、多職種の理解や協力を得るために、排泄プロジェクトチームを結成。プロジェクトメンバーとして、排泄モニター、看護師、医師、介護リーダー、施設長、排泄アドバイザー(業者)を結成し、月 1 回のミーティングを開催した。ミーティングでは、個別排泄状況とパットのランクの見直し、排便コントロールの進捗確認、下剤の調整や皮膚状態の確認等、ケースカンファスも実施。事例検討をすることにより、多職種連携と教育を

目的とした。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ・看護師、介護職が連携し、夜間排便を無くすための排便コントロールの実現。
- ・おむつかバーとリハビリパンツ全廃し、全利用者を綿の専用下着とパットに変更する。
- ・綿の専用下着とパット綿パンツに変更するための利用者、家族への説明と同意並びに職員勉強会の開催
- ・尿測期間を 10 日から 5 日に変更し、利用者個々に合ったケアを迅速に行う。

《4. 取り組みの結果》

夜間の排便に関して、常に夜間帯に排便される利用者が 70 名程いたが、医師、看護師と連携する事により、夜間帯に排便される方が 10 名前後に減少した。パットのランクを上げる職員もいなくなる。おむつかバーを全廃し、リハビリパンツから綿の専用下着とパットに変更するにあたり、業者による使用説明と勉強会を実施。利用者、家族への説明後、段階的に綿の専用下着とパットに切り替えた。変更後、シーツや肌着を汚してしまうようなこともあったが、その都度、現場でのあて方指導を繰り返し実施することにより、職員が職員の技術が上がると共に、意識改革が進んだ。

《5. 考察、まとめ》

個別排泄プログラムの最適化を行う今回の取組の過程で、排便コントロールの実現と皮膚トラブルの改善が達成されたことにより、利用者の生活の質が向上した。常に綿の肌着を身に着けている感覚を取り戻すことで、精神的な安定や安心と幸せが実現し、介護職だけでなく、多職種で利用者の快便に関するきめ細やかなケアが提供できた。快便の実現は、結果的に、快食、快眠、快感へとつながることが理解できたともいえる。今回のことでチームケアの実現ができたことも大変喜ばしいことである。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

60 歳からの漢方一からだの不調・症状を自分に合った漢方薬で改善(新泉社) 蓮村幸兌

《8. 提案と発信》

いくつになっても、綿の肌着をつけていたい。私たちはその願いを諦めずに、利用者の人権を守った個別排泄ケアの実現を行っていく。